

この時期、例年であれば三寒四温を繰り返しながら春の訪れを心待ちにしているときですが、今年はどうも違うようです。今月中旬には、異常とも思える気温の上昇となりました。全国で25度を超える気温を観測し、「夏日」となったところもありました。ひょっとしたら今年の夏も“地球沸騰化”などと呼ばれるような猛暑を予見しているのかもしれません。

高校卒業式が間もなくです(3月2日)。つい先日入学したかと思ったら、もう3年が経ってしまいました。新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され、学校生活への影響も心配されました。学校行事の開催がままならず、不完全燃焼のときもありましたが、生徒のみなさんは乗り越えてくれました。これも思い出と、いつか懐かしむときが来るだろうと思います。

(右の写真は、協創コンテスト・最優秀賞を受賞したMiaさん)



「一所懸命」

2月17日(土)、「協創コンテスト」が行われました。この行事は、本校の教育目標である「グローバル・イノベーション・リーダーの育成」に向けて必要とされる「4つの力」(課題解決する力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力)をカタチに表すためのものです。参加の形態は、個人の部と団体の部に分かれています。

今回が3回目のコンテストになりますが、22の個人・団体が参加しました。個人の部は、弁論、レシテーション、歌唱などがありました。弁論、レシテーションは、中学校と高校1、2年生が予選形式で参加者を決めましたが、それ以外の発表は生徒の自主的な参加でした。また、団体の部は、調査研究、映像、パフォーマンス(ダンスや楽器演奏など)がありましたが、これらはすべてが自主参加です。発表は第1体育館ステージで行われ、生徒はYouTubeによるライブ配信を各教室で見ながら参加者に声援を送っていました。また、当日は生徒自治会が主催するというので、司会を含め、演劇部・放送部が協力してコンテストを進行してくれました。

すべてが終了し、審査結果が発表されました。個人の部・最優秀賞は、現在、スイスからの留学生として高校1年に在籍しているMiaさん(弁論)が受賞。また、優秀賞は、中学2年の森澤虹心さん(弁論)、同じく中学2年の大木悠愛さんが受賞しました。団体の部・最優秀賞は、高校1年の常田萌音さんと高校2年の田丸七星さん(演奏・ピアノとアコーディオンのデュオ)が受賞。優秀賞は、高校1年の秋田佳音さんと河本七海さん(ピアノとトロンボーンのデュオ)が受賞しました。

以上の賞のほかに、生徒が選ぶ「スチューデント賞」も決まりました。その賞には、個人の部で高校1年の小田蓮佳さん(弁論)が、団体の部では野球部(歌唱)が選ばれました。

個人の部で最優秀賞に選ばれたMiaさんは、「大西洋横断」と題して日本語で発表しました。日本に来て半年余りにもかかわらず、流暢な日本語で発表しました。コンテスト出場に向けて随分と練習を重ねたのですが、それにしてもというレベルでした。

その内容はというと、「私のお父さんは、2019年にあることを成し遂げました。それは大西洋横断です。お父さんは、『人生は一度きりなのだから、悔いの残らないように何かに挑戦したい』ということで大西洋横断に挑みました。小型艇でポルトガルを出発し、約50日間をかけて南米北部のガイアナに到着しました。恐らくいろいろな困難にあったことは想像できますが、”一度きりの人生”という想いを達成するために、敢えて大西洋横断に挑戦し、そのことの意味を私たち家族に伝えてくれたお父さんを誇りに思いますし、心から尊敬することができます。お父さんのような人間になれるように頑張りたいです」というものでした。

流暢な話し方の中にも、僅かに見せるたどたどしさにMiaさんの想いの深さを感じずにはおれませんでした。また、Miaさんに示したお父様の生きざまは、我々の心にも刺さるものです。”一度きりの人生”をどう生きるか、課せられた命題として受け止めました。

コンテストに参加したどの生徒も一所懸命に、ひたむきに頑張っていました。失敗を恐れずに表現をし、自らの殻を破ることの体験は非常に貴重なことです。つまりは、この行為の価値に「気づく」こと、そうした感性を持てる人になることが大切なのだと思うのです。そして、この感性を養う機会をつくるのは周囲の大人の責務とも言えます。

来年の「協創コンテスト」、今から楽しみです。